

事業のタネシート

活動地域・団体名：鹿島市・鹿島市ラムサール条約推進協議会

事業名称 1：肥前鹿島干潟基金増額プロジェクト

あらすじ

そもそも有明海環境保全の資金を獲得するため、既存のラムサールブランド認証品の販路拡大と、市内事業所への直接売り込みを行う予定であった。しかし、令和2年7月の大雨災害で登録地および観測地が大打撃を受けたため、知名度アップ重視から災害復興への方向転換。基金を環境保全から復興資金に回すために、基金の増額プロジェクトを始めた。

ストーリー

有明海環境保全の資金を獲得するため、既存のラムサールブランド認証品の販路拡大と、市内事業所への直接売り込みを行う。この認証品が流通することにより、人々の有明海への関心が高まり、さらなる保全活動の活発化が期待される。その他、市内飲食店に対し、認証品を使った寄付付きメニューの提供をお願いする。この事業の成功事例を作り、事業者の自発的なプロジェクトへの参加を目指す。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	豊かで人が集まる干潟	<ul style="list-style-type: none"> ラムサールブランド認証品の認知度向上 成功事例を作ること 支援者を探すこと
②課題	干潟への関心の低下、漁業、持続可能な農業の減少。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	有明海環境保全および災害復興資金が必要なため	
④地域資源	ラムサール条約登録湿地「肥前鹿島干潟」(有明海・干潟) ラムサールブランド認証品	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	ラムサールブランド認証品を市内飲食店にて、寄付付きメニューとして提供する。	
⑥担い手 (Who)	ラムサール条約推進協議会・飲食店組合・佐賀銀行をはじめとする地銀	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	資金の循環 (ラムサールブランド認証品の販路拡大⇒PR活動により宣伝効果が増える⇒売上増⇒売り上げの一部が基金へ入る⇒有明海保全に活用⇒成功事例を見て協力者が増える⇒購入者が有明海に意識を向ける⇒環境保全につながる)	<ul style="list-style-type: none"> 事業に賛同・支援してくれる企業 (肥前鹿島干潟SDGsパートナー) 商工会議所 ヨシの堆肥を使ってくれる果樹農家
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> 基金の増額⇒災害復旧 コロナ禍において低迷している事業所の活性化 人々の関心が有明海に向く 	

事業名称 2 : マイクロツーリズム・エコツアー開催

あらすじ

- ・佐賀県内小中高生を対象とした環境教育の開催⇒マイクロツーリズム
- ・「肥前鹿島干潟」を中心としたエコツアーの開催や、干潟交流館の活用による干潟の利用拡大（観光・産業）
- ・ramsar wing project・・・「肥前鹿島干潟」の知名度の向上と観光スポット化を図る。
- ・**鹿島駅整備計画で、外部の委員たちのイチオシがラムサール。それを利用した駅→ラムサール条約登録地間の観光ルートを開発。**

ストーリー

・コロナ禍において、鹿島市は感染者が少ないことを売りにし、佐賀県内の小中学生の修学旅行の誘致を行った（干潟体験＋環境教育）。これにより、道の駅鹿島も活性化し、鹿島は安全という評価も得られることで、更なる利用者の呼び込みができる。

事業の骨子

現時点で想定される
課題・ボトルネック

①ありたい未来	人の集まる干潟	・環境教育ができる人間が少ない →（解消）今年度研修を行い、担い手が増えた ・コロナ禍で、エコツアーの中心役割が閉店中	
②課題	事業の担い手が少ない 知名度が低い		
③なぜこの事業をやるのか（Why）	干潟という地域資源をフル活用し、観光産業につなげるため		
④地域資源	ラムサール条約登録地・干潟・道の駅鹿島・干潟交流館・安全安心		
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	コロナ禍で県外への移動が難しいため、旅行したい人に鹿島市の安全性を売りに干潟へ呼び込む。観光商品は、干潟、ラムサールブランド認証品、渡り鳥、干潟交流館。これらを組みあわせたマイクロツーリズムを展開する。 鹿島駅整備計画と連動した観光ルートを開発。		
⑥担い手（Who）	道の駅鹿島・肥前浜宿まちづくり公社・ゲストハウス・干潟交流館・鹿島駅		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	交流人口の増加⇒産業の活性化⇒雇用の拡大⇒基金の増加		・専門職員 ・観光業者 ・観光業に精通した専門家
⑧事業で生じる成果	環境教室や環境教育プログラムの実施により、環境や干潟への意識が高く、郷土を誇りに思う若者が増える。⇒若者の流出への歯止め⇒若者の雇用創出（企業誘致・すみよいまちづくり） 環境に対する意識が高い層の呼び込みが可能になる		・ニューツーリズム推進協議会 ・鹿島駅検討委員会

事業名称 3 : 汚泥有効利用施設活用 国交省との地域活力向上計画とのコラボ

あらすじ

事業所にデスポーザを導入し、汚泥有効利用施設を活用することにより、今まで焼却していた生ごみの残渣・廃棄用農作物を堆肥として再利用し、CO2削減につなげる。また、その堆肥によってできた作物はラムサールブランド商品として、都市部へ流通させ、「肥前鹿島干潟」のPRと有明海保全のための資金を獲得する。環境と産業の調和の事業。

ストーリー

デスポーザ事業によって農協や事業者が、処理水の放流によって漁協が恩恵を受けるため、ラムサール条約登録によって拗れていた漁協・農協との対話がこの連携により可能になる。下水道の方から事業者の説明してもらうことで、理解度、協力度が上がり、ラムサール条約に対してもプラスのイメージを持ってもらうよう働きかけることができ、「環境と産業の調和」の実現に向けて事業を進めることができる。また、デスポーザを導入した事業所は環境に配慮した事業所をPRすることができ、企業誘致の際にも強みになる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	産業と環境の調和	・デスポーザで流れるドロドロになった生ごみを浄化センターでうまく処理できるか ・浄化センター周辺農家の住民感情 ・産業間の連携を行うために、多数の関係者の協力体制を構築できるか 課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
②課題	事業者との対話の難しさ	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	国交省の技術を用いて、有明海の環境問題の解決、CO2削減、環境と産業の調和を図りたいため	
④地域資源	地域活力向上計画、廃棄用農作物（主にタマネギ、ミカン）・食品加工業者の生ゴミ残渣、デスポーザ、季別放流水	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	廃棄用農作物、生ゴミ残渣をデスポーザでドロドロにし、浄化センターを経由したあと、有明海に流す。今後汚泥有効利用施設が建設されてからは、この汚泥を堆肥化する。それを農協で使用してもらい、できた作物をラムサールブランド認証品として、付加価値をつけて市場に出す。	
⑥担い手 (Who)	国交省・環境下水道課・農協・漁協	
⑦事業で生じる循環	タマネギ残渣が堆肥へ⇒CO2削減 and 農協は処理費が浮く⇒この堆肥を使った作物を売る⇒売り上げの一部が基金へ入る⇒有明海保全に活用	
⑧事業で生じる成果	産業分野（漁協・農協・事業者）との対話・協力体制 肥前鹿島干潟SDGsパートナーとの連携	